

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2009年8月)
~2ヶ月ぶりの前年比プラス~

発表日2009年10月8日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 小杉 晃子
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

		原数値 経常収支 (億円)					季調値 経常収支 (億円)						
		前年比	貿易・サービス収支			所得収支	前期比	貿易・サービス収支			前期比		
			前年比	前年比	前年差			前期比	前期比	前期比			
												貿易収支	サービス収支
前年比	前年比	前年比	前年差	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比				
08	1月	11637	1.8	赤字	▲ 36.9	▲ 34	7.2	18369	7.9	111.1	47.6	531	▲ 12.9
	2月	25142	4.8	▲ 9.2	▲ 7.0	▲ 168	14.3	15693	▲ 14.6	▲ 53.8	▲ 41.3	187	4.3
	3月	29024	▲ 11.7	▲ 33.3	▲ 29.3	▲ 788	6.6	18488	17.8	52.9	36.6	▲ 323	5.1
	4月	13859	▲ 29.4	▲ 59.1	▲ 41.9	1347	▲ 17.1	17238	▲ 6.8	26.9	▲ 1.8	1338	▲ 13.2
	5月	19810	▲ 6.8	16.2	▲ 0.1	687	▲ 12.4	18466	7.1	9.5	9.5	▲ 114	3.6
	6月	4716	▲ 68.9	▲ 99.8	▲ 81.5	▲ 440	25.1	14633	▲ 20.8	▲ 80.8	▲ 54.0	▲ 976	11.1
	7月	15693	▲ 15.2	▲ 81.5	▲ 60.0	926	8.4	15960	9.1	224.3	37.6	1391	▲ 7.7
	8月	10610	▲ 49.0	赤字	赤字	761	▲ 5.1	9460	▲ 40.7	赤字	赤字	▲ 723	▲ 5.7
	9月	15646	▲ 46.5	▲ 89.6	▲ 81.9	77	4.9	15060	59.2	黒字	黒字	257	8.1
	10月	9796	▲ 55.6	赤字	▲ 88.1	365	▲ 15.9	10593	▲ 29.7	赤字	▲ 92.5	162	▲ 7.7
	11月	6236	▲ 63.4	赤字	赤字	643	▲ 15.4	4371	▲ 58.7	628.1	赤字	▲ 627	▲ 5.1
	12月	1629	▲ 89.7	赤字	赤字	215	▲ 27.5	5922	35.5	▲ 29.0	▲ 51.6	▲ 547	▲ 4.1
09	1月	▲ 1327	赤字	486.4	赤字	392	▲ 31.5	1568	▲ 73.5	60.2	136.9	342	▲ 13.9
	2月	11348	▲ 54.9	▲ 92.5	▲ 80.9	▲ 263	▲ 34.1	6956	343.6	▲ 68.4	黒字	▲ 517	▲ 1.5
	3月	15346	▲ 47.1	▲ 87.1	▲ 89.8	782	▲ 13.3	9392	35.0	▲ 32.2	87.4	605	24.2
	4月	6606	▲ 52.3	赤字	▲ 72.1	▲ 348	▲ 18.3	10100	7.5	黒字	650.0	413	▲ 14.2
	5月	13114	▲ 33.8	▲ 48.8	▲ 20.9	▲ 1341	▲ 24.9	10124	0.2	74.3	66.2	▲ 925	▲ 4.0
	6月	12794	171.3	25505.3	143.9	1265	49.8	19284	90.5	300.3	81.0	1647	34.0
	7月	12656	▲ 19.4	78.0	42.3	▲ 646	▲ 24.2	11590	▲ 39.9	▲ 58.7	▲ 35.8	▲ 1232	▲ 26.3
	8月	11712	10.4	黒字	黒字	▲ 69	▲ 24.5	12336	6.4	45.5	15.2	521	▲ 5.9

(出所)財務省「国際収支状況」

○8月の経常収支は前年比+10.4%

8月の経常収支は前年比+10.4%の1兆1,712億円(原数値)と、コンセンサス(同1兆1,480億円、レンジ1兆329億円~1兆4,863億円)を若干上回った。海外での在庫調整の進展や各国の経済対策効果により輸出の回復が継続していることに加え、原油価格下落により輸入金額が輸出金額を上回るペースで減少したことで、貿易収支は前年の赤字から黒字に転じた。一方、所得収支は、証券投資収益の受取の減少幅が支払のそれを上回ったことなどから、2ヶ月連続で黒字幅は縮小した。

8月の経常収支は、所得収支の黒字幅が縮小したものの、貿易収支が黒字に転じた結果、7ヶ月連続の黒字となり、黒字幅も拡大したことから、経常収支の改善傾向は継続していることが確認された。

○貿易収支の改善は継続

経常収支の内訳をみると、貿易収支は3,037億円と前年の赤字から一転して黒字となった。世界的な在庫調整の進展や自動車買い替え支援策をはじめとした経済対策効果などにより、輸出は回復傾向が続いている。他方、輸入は、昨年のエネルギー価格高騰の反動の影響を受けて、価格面での減少が継続している。輸入が輸出を上回るペースで減少した結果、貿易収支は7ヶ月連続で黒字を維持している。

サービス収支は▲1,228億円(前年比+6.0%)と、2ヶ月連続で赤字幅が拡大した。貿易取引の回復を背景

に「輸送」の赤字幅が拡大したほか、「その他サービス」の黒字幅が縮小したことが影響した。

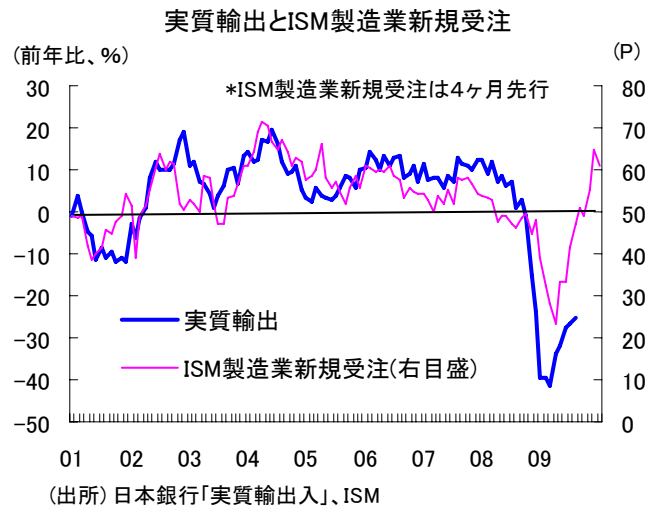
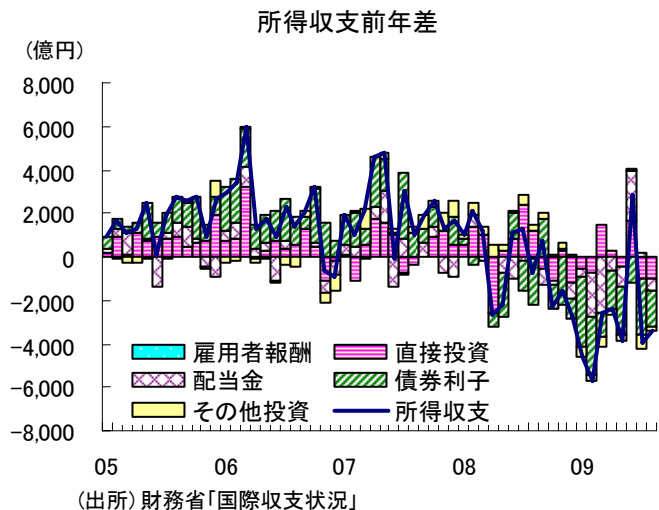
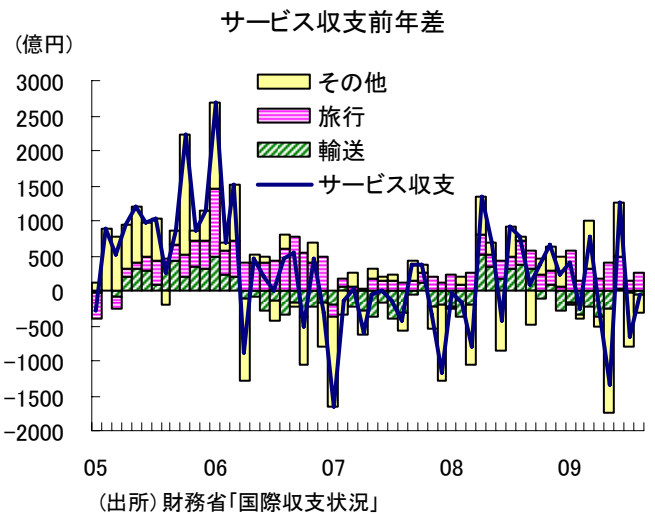
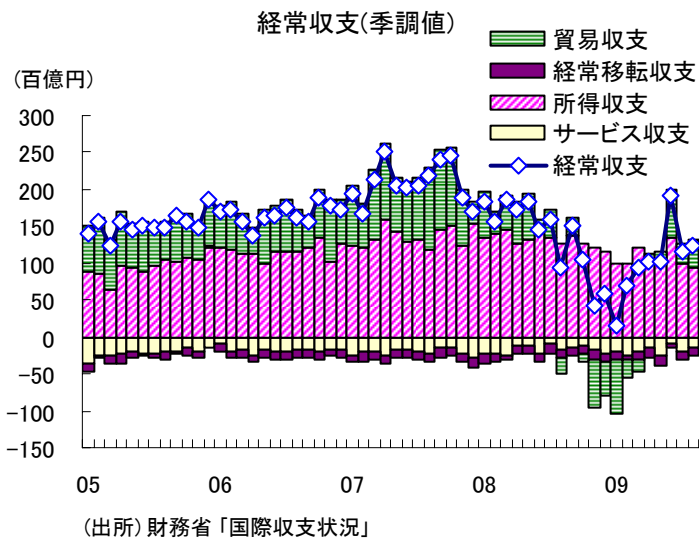
所得収支は1兆606億円（前年比▲24.5%）と、前月（同▲24.2%）に続き黒字幅が縮小した。海外金利の低下や円高の進行などにより「証券投資収益」が減少したことなどから、全体として黒字幅が縮小した。

○先行き経常収支は、貿易収支の改善を主因に改善傾向が続く見通し

経常収支の先行きについて展望すると、まず貿易収支に関しては、海外経済の持ち直しによる輸出の回復や、原油価格下落を背景とした輸入金額の減少の持続が予想されることから、今後も改善傾向が続くだろう。9月上中旬の貿易統計の結果をみても、輸入（前年比▲37.6%）が輸出（同▲28.9%）を上回るペースで減少している。また、輸出に先行する傾向があるISM製造業景気指数（新規受注）やOECD景気先行指数（6ヶ月前比年率）などの指標も、比較的早いペースで改善していることから考えて、目先の輸出は比較的高い伸びとなると見込まれる。

次に所得収支は、足もとでは緩やかな減少が続いているが、今後は世界経済の回復に伴う海外子会社の業績好転により受取配当金が回復していくことが予想される。但し、低金利の持続から債券利子の受取が低迷する可能性が高いことや、為替レートが円高傾向で推移していることなどを考慮すると、回復力に乏しい動きが継続しよう。

以上を踏まえると、先行き経常収支は、貿易収支の改善を主因として、改善傾向が続くと見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。